

◎上西小学校校歌の意味を考える。

# 集落支援員だより

西之表市地域支援課  
上西集落支援員  
馬場 信一 編集  
連絡先090-9579-3953  
上西校区長責任発行



それまでにはなかった上西小学校校歌ができたのが昭和39年3月のことでした。今から56年前のことです。当時の児童数は170名。昭和39年4月、木造校舎の3教室の壁を取り外した講堂で行われた入学式で初めて「遠く延喜の～」と校歌が響き渡りました。今回は「指さす花里の…」と続く校歌の意味を考えてみました。

三 大隅半島と種子島の間を黒潮が流れます。最高速度3.5ノット(時速5.6km)は「早潮」の言葉通り。

「大崎の岩」は板敷鼻(下写真)の岩のこと。まるで板を敷いたような巨岩が海に突き出たところ(つまり、鼻先)にあります。



↑いかにも固そうなこの岩々は、熊毛でもっとも古い地層がむき出しになっているところだそうです。

希望の鐘



鐘を鳴らす役は用務員さんでした。鐘は校長室入口に置いています。懐かしい音を、自らの手でぜひ響かせてください。

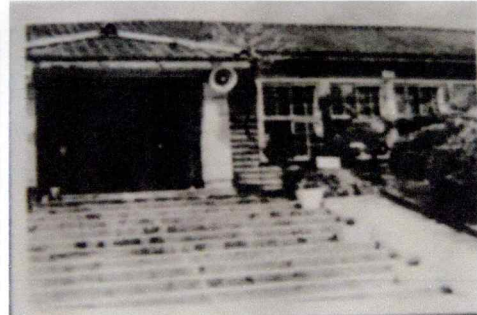
←拡大写真：しっかり残る「上西小学校」の文字。「學」が歴史を語る。

一 遠く延喜のむかしから 島の護りと四柱の  
神のしずまる上西に 鐘の音高く伝統の  
光かかげる わが母校  
二 かがやく夢を語りつつ 指さす花里の気は晴れて  
学びの窓に映える雲 誇りを共に上西の  
あすを担おう 朗らかに  
三 のぞむ大隅早潮が 寄せて波うつ大崎の  
岩より固いころざし 緑の八面にこだまする  
希望の鐘は わが母校

伊勢神社境内から花里をのぞむ

「花里」は大花里と花里崎の総称で、その一帯を示しています。昔、狩りに来た殿様がここを訪れた折、野山に咲き乱れる美しい花々に感心して「花の里＝花里」と名付けたといわれています。

旧校舎の中央入り口  
なつかしい学び舎



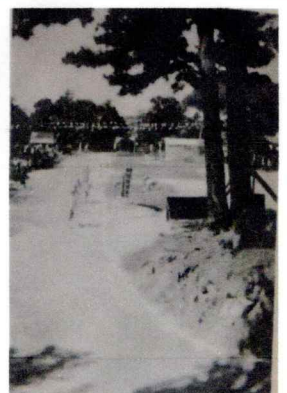
「延喜」は平安時代の年号のひとつで、それまで乱れていた世の中を天皇中心の政治で中央も地方もまとまり、安定した時代のことです。はるか昔を表す代名詞でもあります。



島を護るのは学校の上(成高山)に鎮座される伊勢神社の神様のことですね。

「柱」は神様の数え方。  
・天照大神・豊受大神  
・春日大明神・大山祇神  
の四柱を合祀しています。

ドラマを生んだ一本松  
運動会でのリレー風景



この取材には伊勢神社の笹川宮司、上西小学校の職員の方々、種子島漁協の方々にご協力をいただきました。ありがとうございました。

次回は歌詩全体の解釈をお伝えします。